

何をしてもいい。何もしなくてもいい。  
きみは、きみのままでいい。

## いまを生きるすべての子どもと、かつて子どもだった大人に贈る、 生きる力を育む“じかん”

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まっています。手作りの玩具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集まっています。

ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休息したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子も…。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め――。

家庭でもない、学校でもない、第3の子ども  
の居場所を公設民営で運営している先進的な  
モデルとして、全国の自治体から注目を集める  
ゆめパの日々を3年にわたり撮影したのは、『さ  
とにきたらええやん』の重江良樹監督。遊ぶこと、学ぶこと、休息  
すること、人と共にあること。その輝きも揺らぎも、子どもたちのか  
げがえのない“じかん”はきっと大人たちにも大切なものを思い起  
こさせてくれることでしょう。

子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所  
の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」  
を描き出したドキュメンタリー。



子どもは“好き”を見つけ、“自分らしさ”を表現する  
才能があると改めて感じました。

『ゆめパのじかん』では、その才能を最大限に発揮し、大人にはない行動力を爆発  
させている、子どもたちの輝く瞬間をリアルに映し出しています。周りと同じである  
必要なんてなく、自分らしさを持つことが大切だということを子どもたちが教えてく  
れました。年齢問わず、多くの方にこの作品を観ていただきたいです。

――中川翔子(歌手/タレント)

「子どもは自分で考えて決断することができない庇護すべきか弱  
いイキモノである。だから、我々オトナは彼らを守り、教え、“正し  
い道”に導かなければならない。『ゆめパのじかん』を観た後は  
そんな思い込みがきつと一掃されてしまうだろう。

無気力で勉強嫌いと思われがちな  
不登校児のイメージも変わるかもしれない。

――深爪(エッセイスト)

未来はひとりひとりの  
手作りの希望からしか生まれえない。

――谷川俊太郎(詩人)

「川崎市子ども夢パーク」とは  
神奈川県川崎市高津区にある子ども  
のための遊び場。2000年に制定された「川  
崎市子どもの権利に関する条例」をもとに市  
民参画で作られた、工場跡地を利用した約  
1万㎡の広大な敷地にはプレーパークエ  
リア、音楽スタジオや創作スペース、ゴ  
ロゴロ過ごせる部屋のほか、学校に行っていない  
子どものための「フリースペース・えん」が  
開設されている。乳幼児から高校生くら  
いまで、幅広い年齢の子どもが利用している。

yumepark.net

2023年5月13日(土)

詳細・申込はこちらまで→

会場: プラザおおむら

上映開始: ①15:00 ②19:00

主催 ながさき『ゆめパのじかん』自主上映実行委員会

前売 1000円(高校生以下無料)  
当日 1300円

